



## 平成25年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月31日

上場会社名 北海道コカ・コーラボトリング株式会社  
 コード番号 2573 URL <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>

上場取引所 東 札

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 矢吹 健次

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部担当 (氏名) 前田 則彦

TEL 011-888-2051

四半期報告書提出予定日 平成25年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年12月期第3四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第3四半期	41,827	△3.0	828	22.0	911	17.4	494	6.8
24年12月期第3四半期	43,112	△1.2	679	△55.5	776	△50.8	462	△67.6

(注) 包括利益 25年12月期第3四半期 548百万円 (18.3%) 24年12月期第3四半期 463百万円 (△67.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第3四半期	13.53	—
24年12月期第3四半期	12.67	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年12月期第3四半期	47,328	38,075	80.4	1,042.22
24年12月期	46,047	37,965	82.4	1,039.18

(参考) 自己資本 25年12月期第3四半期 38,075百万円 24年12月期 37,965百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	6.00	—	6.00	12.00
25年12月期	—	6.00	—		
25年12月期(予想)				6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	56,300	0.0	1,000	98.5	980	55.7	500	△30.8	13.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期3Q	38,034,493 株	24年12月期	38,034,493 株
② 期末自己株式数	25年12月期3Q	1,501,932 株	24年12月期	1,500,576 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期3Q	36,533,096 株	24年12月期3Q	36,535,947 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。上記の業績予想に関する事項につきましては、添付資料の3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、実質GDP成長率や設備投資などの景気の全体観を示す主要統計が軒並み緩やかな上昇を続けており、国内経済に回復の兆しがみられました。

清涼飲料業界では、市場全体でミネラルウォーターや緑茶飲料が堅実な伸びをみせているものの、ビール系メーカーが清涼飲料市場へ積極的に経営資源を投入し、生産及び販売体制を強化したことによって、市場におけるシェア争いが激化し、企業収益を圧迫する厳しい市場環境が続きました。

このような状況のなかで当社グループは、既存市場においてシェアを高める活動と、新たな顧客獲得によって売上の拡大をはかる活動に注力してまいりました。

具体的には、同一店舗内での売場拡大による販売促進をはかり、レジ前やパン・総菜に近い売場獲得への取り組みを強化するとともに、セールス拡大の余地があるホテル、レストラン、カフェ等のサービス業種への営業活動の強化を行いました。

自動販売機事業では新規開拓活動に注力し、なかでも主要都市においては季節によって売上が左右されにくい屋内ロケーションに集中して新規設置活動を行い収益の改善をはかったほか、昨年導入したペットボトル「スマートボトル」(容量1.25リットル)を主に集合住宅付近の自動販売機へ拡大して展開することにより、さらなる売上の拡大をはかりました。

加えて、コカ・コーラブランドにおいては、「コカ・コーラ」、「コカ・コーラ ゼロ」、「コカ・コーラ ゼロフリー」の3カラーの飲み比べサンプルリングや、「ゼロリミット プロモーション」、「コカ・コーラTMミュージックプロモーション」などの大型プロモーションを実施するなど、コカ・コーラブランドの更なる強化をはかりました。

新たな顧客獲得に向けた活動としては、シニア層や主婦層を中心に、インターネット等を利用した宅配サービス「グッと楽便(らくびん)」を展開し、更なる清涼飲料需要の発掘を行ったほか、小規模の取引先を対象とした販売機材や納品方法を確立し、拡販につとめました。さらに、高齢者層の比率が高く1世帯あたり的人数が少ない北海道エリアの特徴を踏まえ、ケース販売よりも持ち帰りに便利なハーフケースによる販売や、「ジョージア5缶シュリンクマルチパック」の展開を強化し、消費者のニーズに沿った販売により売上拡大につとめました。

新商品としては、スポーツシーンだけではなく日常の水分補給時に飲用されることを想定した「アクエリアス ビタミン」や、コーヒー飲料のラインナップ拡充策として「ジョージア ヨーロピアンプレミアムブレンド」を発売し、両ブランドの強化をはかりました。

企業体質の強化策については、利益率の高い商品の販売構成比を高めることにより売上総利益率の向上につとめるとともに、自社製造比率を向上させることによって製造・物流面でコスト削減を行ったほか、広告・販売促進費用の見直しも全社的にを行い、収益力の強化をはかりました。

また、社会環境の変化や様々な要因によりもたらされるリスクに対応し、持続可能な成長と社会から信頼される企業を目指すため、5月に「リスクマネジメント方針」を定め、当社グループ全体の統制とリスク対応力の向上につとめました。

地域との結びつきを深める活動については、災害発生時の行方不明者の捜索や救出など中長期の活動に必要な飲料等を迅速に提供することを目的として、北海道警察本部との間で4月に締結した「災害等発生時における飲料の供給に関する協定」に基づき、7月に協働で防災訓練を行い、安全・安心な地域づくりに貢献しました。

社会貢献および環境保全活動としては、水源地である札幌市清田区白旗山をはじめとする北海道の自然保護に向け、北海道大学大学院環境科学院と「北海道における環境保全・地域社会の発展に向けた連携・協力協定」を7月に締結し、その協定に基づき、未来を担う子供達への教育や交流を目的に、地元である清田区並びに区内の小中学校との連携のもと「やまのがっこう」を開校することで「産・学・官・民」の協働を実現し、環境保全と地域社会の発展に貢献しました。

また、電力需給がひっ迫するピーク時の電力削減に持続的に貢献する自動販売機として、夏の日中の消費電力を95%削減しながら16時間もの間冷たい製品を提供する省エネ自動販売機「ピークシフト自販機」を導入し、設置を開始しました。

以上の取り組みの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は市場における競争激化により418億2千7百万円(前年同期比3.0%減)となったものの、積極的なコスト削減に取り組んだ結果、営業利益は8億2千8百万円(前年同期比22.0%増)、経常利益は9億1千1百万円(前年同期比17.4%増)、四半期純利益は4億9千4百万円(前年同期比6.8%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、473億2千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ12億8千万円増加いたしました。これは主に、前払年金費用が減少したものの、現金及び預金、受取手形及び売掛金が増加したことによるものです。

負債は、92億5千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億7千万円増加いたしました。これは主に未払法人税等、賞与引当金が増加したことによるものです。

純資産は、380億7千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億9百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金、その他有価証券評価差額金が増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績見通しについては、当第3四半期連結累計期間では利益は各種コスト削減策により前年を上回りましたが、北海道内における清涼飲料市場は消費者指向の多様化、購入チャネルの多岐化に対応した流通チャネルの多種化とそれに伴う流通業界の競争激化の影響で価格競争が益々厳しくなり、加えて清涼飲料業界のシェア争いも引き続き激化し、今まで以上に更に厳しい経営環境で推移するものと思われまます。

このような状況のなか、当社グループはシェア維持・拡大策及び、原価低減を中心とした徹底したコスト削減に引き続き取り組んでまいります。

現時点においては平成25年2月8日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,163	8,287
受取手形及び売掛金	4,245	4,931
商品及び製品	4,406	4,249
原材料及び貯蔵品	313	398
繰延税金資産	311	421
その他	1,737	1,562
貸倒引当金	△19	△14
流動資産合計	18,158	19,838
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,200	6,909
機械装置及び運搬具(純額)	5,355	4,904
販売機器(純額)	4,171	4,275
土地	6,049	6,055
建設仮勘定	249	323
その他(純額)	1,000	1,538
有形固定資産合計	24,027	24,008
無形固定資産		
ソフトウェア	524	407
その他	22	22
無形固定資産合計	547	429
投資その他の資産		
投資有価証券	442	537
長期貸付金	349	304
繰延税金資産	25	16
前払年金費用	2,112	1,807
その他	410	411
貸倒引当金	△26	△25
投資その他の資産合計	3,314	3,051
固定資産合計	27,889	27,489
資産合計	46,047	47,328

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,555	2,694
未払金	1,696	1,592
未払法人税等	230	461
賞与引当金	—	353
設備関係未払金	125	197
その他	1,827	1,917
流動負債合計	6,436	7,215
固定負債		
繰延税金負債	794	704
資産除去債務	100	97
退職給付引当金	62	39
その他	688	1,196
固定負債合計	1,646	2,037
負債合計	8,082	9,253
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,935	2,935
資本剰余金	4,924	4,924
利益剰余金	30,981	31,037
自己株式	△900	△901
株主資本合計	37,940	37,996
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	24	79
その他の包括利益累計額合計	24	79
純資産合計	37,965	38,075
負債純資産合計	46,047	47,328



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
売上高	43,112	41,827
売上原価	27,916	27,132
売上総利益	15,195	14,694
販売費及び一般管理費	14,516	13,866
営業利益	679	828
営業外収益		
受取利息	10	6
受取配当金	4	7
受取保険金	—	51
受取補償金	26	—
その他	114	73
営業外収益合計	155	139
営業外費用		
支払利息	1	1
固定資産除却損	18	27
寄付金	11	16
解体撤去費用	12	—
その他	14	11
営業外費用合計	58	56
経常利益	776	911
特別利益		
固定資産売却益	1	30
その他	—	2
特別利益合計	1	32
特別損失		
固定資産除売却損	75	2
減損損失	20	6
その他	1	1
特別損失合計	97	9
税金等調整前四半期純利益	680	934
法人税、住民税及び事業税	488	661
法人税等調整額	△270	△221
法人税等合計	217	440
少数株主損益調整前四半期純利益	462	494
四半期純利益	462	494

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	462	494
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	54
その他の包括利益合計	1	54
四半期包括利益	463	548
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	463	548
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

当社グループの事業は、北海道を主な販売地域とする清涼飲料の製造・販売並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。